



一致団結して競技に臨む選手たち

第64回茨城県消防ポンプ操法競技大会県西地区大会が10月19日、古河市中央運動公園で開催され、下妻市からは第5分団の選手6名が出場しました。

今年6月から厳しい訓練の重ね、競技に臨んだ指揮者の齊藤正浩さんからは「仲間たちの応援の中、本番でベストの演技ができた。選手やサポートしてくれた皆さんに感謝し、団員69人が目標を一つに輪になれたことを生かしていきたい」と話が聞きました。

第65回茨城県消防ポンプ操法競技大会県西地区大会

より速く、より確実に



秋晴れの中でクラフトビールを楽しむ来場者

今年で15周年を迎えたビアパークしもつままで9月27日、「クラフトビール祭り」が行われました。茨城・栃木・埼玉の3県から6社のブルワリーが参加。20種類のクラフトビールの飲み比べや下妻産の食材を生かした料理に、市内外から家族連れや地ビールファンなど約3,500人が来場しました。

ビアパークしもつまは創業以来、施設内の自社工場で地ビールを製造・販売してきましたが、地ビールをメインにしたイベントを主催するのは初めて。

市内から家族や友人と訪れた40代の女性は「友人たちといろいろなビールを買い寄って、飲み比べられるのが楽しい。下妻の地ビールはフルーティで飲みやすいですね」と喜んで味わっていました。

クラフトビール祭りinビアパークしもつま

地ビールと共に下妻産の食を楽しむ

紫色の花が一つの茎に段状に咲く段菊、えんじ色の楕円形の花を付けたワレモコウ、秋の七草で黄色の花を咲かせるオミナエシなど288点の鉢植えを展示した「秋の山野草展」が9月26～28日の3日間、小貝川ふれあい公園ネイチャーセンターで開催されました。

丹念に育てられた鉢植えは、下妻市自然愛護協会の会員18名が出展したもの。来場者は鉢植えに顔を近づけて鑑賞するなど、自然の美しさを鉢の中に凝縮した作品に見入っていました。

市内小野子から来場した80代の女性からは「山野草の自然な感じが好きで自分でも育てています。見栄えのする鉢植えの仕方が参考になります」と話が聞きました。



洗練された作品に見入る来場者たち

心と秋の山野草ずらり

宗道ニューモンキーズスポーツ少年団の選手や関係者23人が10月24日、「日本ハム旗第16回関東学童軟式野球秋季大会茨城県大会」(10月11・12・13日)での優勝と関東大会への出場を報告するため、市役所本庁舎を訪れました。

チーム創設から34年間の戦歴で各種県大会では4度の準優勝を経験。今回5度目の挑戦で悲願の県大会初優勝を果たしました。

11月22日から千葉県鎌ヶ谷市のファイターズタウンで開催される関東大会に向けて、主将の木村泰賀さん(宗道小5年)は「茨城県代表として監督、コーチと選手16人みんなの力を合わせて優勝したい」と力強く決意を表明しました。



県大会優勝を報告、関東大会での活躍を誓いました

悲願の県大会優勝、関東大会でも優勝を目指す



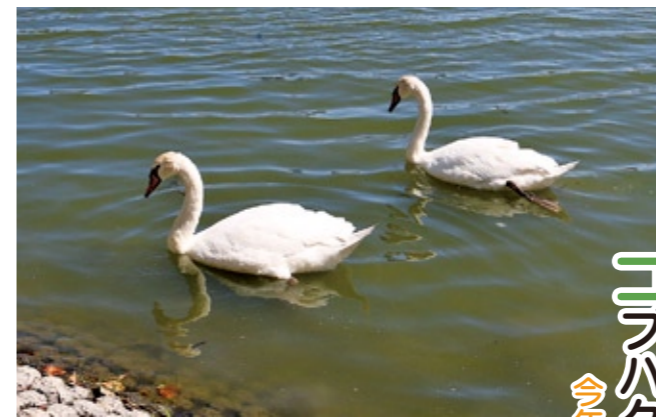
賞状と記念品が受賞者に贈られました

交通安全母の会下妻支部は、児童の交通安全意識を高めるとともに、子どもの目線から交通事故防止を訴えるため、市内小学生に交通安全を呼び掛けるポスターを募集しました。

今年度は、市内小学生から応募された作品599点の中から入賞した72人が10月10日、千代川公民館ホールで表彰されました。

入賞者代表でお礼の言葉を述べた下妻小学校5年の高橋啓太さんは「交通事故の現場を見て、自転車の乗り方に気を付けたいと思ってポスターを描いた。一生懸命描いたポスターが入賞してうれしかった。これからは交通ルールを守り、クラスみんなや同じ学校の人も事故にあわないよう、正しい歩き方や自転車の乗り方ができるよう話していきたい」と力強く語りました。

子どもの目線から交通事故防止を訴える



仲良く湖面を泳ぐコブハクチョウ

砂沼に9月29日、コブハクチョウ2羽が飛来しました。今年1月にコブハクチョウ4羽が飛来したことに続いて、つがいと思われる2羽の仲の良い姿は、砂沼を散策する人や地元住民の目を楽かせています。

日本野鳥の会に所属する市内堀籠の望月和夫さんは「コブハクチョウは珍しい鳥ではなく、砂沼には白鳥にとってエサとなるものがたくさんあるため来たのではないかと。この2羽につられて他の白鳥が渡って来る可能性があるのか、かわいがってもらいたい」と白鳥が増えていくことに期待を寄せました。

コブハクチョウ2羽仲良く飛来



JICA (ジャイカ:国際協力機構) 国際協力レポーター2014の派遣隊員となった塚田好美さんが10月7日、稲葉市長を表敬訪問しました。

国際協力レポーターは、日本が180を超える国と地域に国際協力している現場を直接視察し、日本人が知らない、日本人の頑張りを伝えていく役目を担っています。

塚田さんは、市内高道祖出身でつくば市役所の職員10年目。現在は人事交流事業でつくば市内の民間企業に勤務する中、8月31日～9月7日の8日間、エチオピアに派遣されました。

現地では、橋の架け替え工事や革靴製造工場で5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)による「改善」活動を指導するJICAプロジェクトなどを視察した塚田さん。「やる気を持って現地に赴く国際協力員は、仕事外でもコミュニティを広げたり、他の協力員と協力して活動したりと地域に貢献している」と日本人の活躍ぶりを稲葉市長に伝えました。

また、エチオピアの教育は英語で行われ、「次世代の子どもたちには国際的な感覚、視野を広く持ってもらいたい。下妻市に限らず英語教育に力を入れ、小さい頃から世界を見る感覚で子どもたちを育てていく必要があるのでは」と英語教育の重要性を強調しました。



稲葉市長(左)にパソコンを使いながら現地の国際協力活動を説明する塚田さん(右)

国際協力の現場と日本人の頑張りを伝える